

授業参観アンケート回答結果について

平成22年6月21日(月)から7月2日(金)の期間に行いました授業公開に対するアンケート調査にご協力いただき、大変有難うございました。お蔭様で多数の教員から回答が寄せられましたので、授業を参観した感想や意見について学内に向けて公開いたします。工学部教育企画委員会FD部会では、これらの感想や意見を参考に今後の授業公開のあり方やアンケートの調査方法について審議することにしておりますので、引き続きご協力いただきたくお願いいたします。

【アンケート(b) の質問内容】

質問1 授業を参観して、ご自身の授業で改善しようと思ったことがあればお書きください。

質問2 授業参観の実施に対して感想や意見を自由にお書きください。

【質問1 に対する全回答】

(機械工学科)

- 具体例を用いて分かり易く説明するように改善する。
- スライドショーによって進めているが、講義のスピードが速くなりがちなので、学生の様子を見ながら進めていくことが大切だと思った。
- 計算などは、途中計算を詳しく示すか、学生に解かせるなどの工夫をすることが必要だと思った。
- 室温、マイクの音量など環境が整っているか、毎回確認するべきだと思った。
- 板書の際には、文字の大きさ・位置に注意し、学生の理解を高めるように心がけたい。
- 参観した授業では、式の導出手順を全て書くのではなく、ヒントを出しながら学生に式変形を行わせていた。受講生自らが手を動かすことで、数式や理論の理解力が上がると感じた。学生の演習時間を十分に確保できるよう、現在の授業構成を再考したい。
- 講義資料の作成方法が大変参考になりました。配付プリントを有効に活用することが、学生の理解を深めるので、教科書はむしろ従とする配付プリントに重点を置いた講義計画を立てるようなと思った。

(電気電子システム工学科)

- ずっと黒板に張り付いているのではなく、適宜様子を見回った方が、講義内容が学生によく伝わると思った。
- 私もレポートを提出させているのだが、今後はその内容についてのコメントをして行きたいと思った。
- 黒板を上手に利用して、板書よく講義を展開することが非常に重要であることを改めて感じました。

今後板書の仕方を改善し、教育の効果を向上したいと思っております。

- 履修者の多い大きな教室の場合、マイクが入っているかどうか、きちんと確認する必要もあります。
- 板書の文字が小さくならないよう常に気を付ける。
- 授業評価で板書が多いとコメントされるので、板書したキーワードを書き込む形式の講義資料を配布することも考えていましたが、実際にこの形式で行っている講義を拝見し、実施してみようと思いました。
- 今年度の授業参観では、講義中の演習の出し方、時間の設定を再考した。
- 板書の視認性の向上、インタラクティブな授業、ゆったりとした速度の三点を心がけたい。
- 自分が思っている以上に、聞く方にとっては授業のスピードを速く感じることを知りました。これからはゆとりを持って講義のプランを立てることにします。

(情報システム工学科)

- 講義資料を Web 上で公開することは学生にとって便利であると感じました。学内限定で Web 上に公開する方向で進めていく予定です。
- 講義資料をもっと時間をかけて作成すべきだと思いました。講義資料を読むだけで授業の予習・復習ができるように説明を加えるべきだと思いました。
- 学生を飽きさせないような工夫が必要であると感じました。
- 黒板を使う授業とパワーポイントを使う授業の両方を参観しましたが、どちらもそれぞれに長所があり良かったと思います。黒板とパワーポイントのどちらの授業が効果的であるのかを、一度 FD 委員会等でご議論して頂きたいと存じます。
- コメントペーパーは最近の授業では必須だと思うので導入したい。
- 「余談」も挟みつつ、メリハリをもった授業へと改善していきたい。
- ゆっくりと話すところなどは参考になりました。
- 一部の学生の受講態度の悪いのに、後ろから見て、あらためて驚いた。出欠表が回ってきて記入したらすぐに帰ってしまうものもいる。注意してやろうかと思ったが、講義の妨げになるので、しなかったが、3分の2以上の出席を義務付けているので、出欠の記録のためにだけ来ているという感じがした。個人的には聞きたいものだけがいてくれればよいと思っているので、出欠はとりたくないが、取り決めなので、参観した講義と同様に出欠表を回している。出欠表を回すのを忘れてしまうことがあるので、講義の最初に回していたが、これからは講義の終了近くに回すことにしようと思う。あまりポジティブな改善点ではないが、参観した授業はよく準備されており、内容や話し方もよかったので、それらの面で自分の授業を改善しようという点もあったが、学生の態度のことが一番気になった。
- 配布資料をどれだけ詳しく書くべきか考えさせられた。

(応用化学科)

- いつも落ち着きのない学生や睡眠をとる学生が目につき、時に叱りつつ大きな声で講義をしがちですが、穏やかにゆっくり話すのも良いかもしれないと思いました。
- 「これは必ずテストに出す」と言って勉強させることもいまどきの学生には必要かもしれないと改めて感じました。今まで全くそのようにしていなかったわけではありませんが、もっと多くしようと考えています。
- 学生の集中力を持続させるための努力と工夫の必要性を感じた。講義内容と学生の理解度のバランスが難しい。
- 大きな字での板書、ゆっくりとした話し方です。また、学年が進み、基礎をある程度終えた段階での各論の講義においては、到達した結論に対する多角的な解釈や他の概念との関連を、時間が許す限り付け加えたいと思いました。
- 学生との対話を取り入れるなどして、興味・意識を高める工夫を行いたい。
- 学生のレベル、目標とする到達度と講義内容のバランスについてももう一度見直したい。
- 適宜「まとめ」を入れ、学生に学んでほしいことを明確にすることが必要であると感じた。
- 授業のテンポが大事であることを改めて認識した。
- これまで、授業をなるべく早く進めるために、授業中に学生に話しかけることはほとんど無かった。参観した授業では、話しかけることで学生に緊張感を持続させ、授業内容を理解してもらうという工夫が見られた。私の授業でも、もう少し学生に話しかけることが必要だと感じた。
- 講義中に専門用語の英訳も取り入れ、学生に英語も覚えてもらうことを、今後、取り入れようと思います。
- 理解度チェック等のアンケートを授業の最後に配り、授業の理解度を計り、改善していく。
- 字を大きく丁寧に書く。
- 学生に理解度を確認する。

(機能材料工学科)

- パワーポイント及びノートの作り込みが必要と思いました。
- 教員の授業中の表情も大切かなと思いました。これは授業の雰囲気はかなり決めることになりそうです。
- 3年生～4年生相手の講義だと、受講者の数も少なくていいですね。やる気のある受講者に限定した講義を、自分も行いたいものです(初年度の準必修の基礎教育科目の講義のみ担当しております)。
- 板書を丁寧に大きく書くことを心がける。
- 学生の自己学習を促す取り組みとして、学生を指名して解答を説明させる等の試みを行う。
- 時間配分に留意し、より丁寧な説明を心がける。
- 板書の字をより大きく書く努力をする。
- マイクを使用するなど分かりやすい講義が行われていたので参考になりました。
- ホワイトボードに書く字の大きさ等参考になりました。

- 多人数の場合、出席をとるか否かに関して、常にジレンマに陥るが、80人を超えると、レポート回収で代替していたのは正解かもしれないと感じた。
- わかりやすい説明を心がける。

(建設工学科)

- 学生にコメント用紙を配布し、講義内容に関する質問、よかった点、分かりにくかった点を聞くこと、また、それらを次回の講義で補足することは、学生の理解を促す大変良い方法だと思いました。
- 高いレベルの講義内容に接し、自らの講義内容を再考しようかと考えています。また教えたい内容について、簡単な例題をうまく使って説明する工夫をしたいと思います。
- 今年度からプロジェクトと資料中心の授業にしたが、やはり板書もある程度含めないと、眠くなる？
- 出席表は授業開始後30分までを周知させたいと思う。
- 説明の速さを遅くする。
- 演習のノート(学生に見せるもの)はできるだけ隠して、学生に少しでも考えさせてから見せる。
- 写真・動画など積極的に使いたいと思います。
- 説明にゼスチャーを組み入れる。
- 講義ノートを投影するに際し、デジタルポスティブを使用することを取り入れたい。

(環境共生学科)

【質問2 に対する全回答】

(機械工学科)

- 工学部の全科目についてオープンにすると良いのでは？
- 他の先生方がどのような講義をされているかを見ることが出来る機会は大変有意義ですが、対象の先生には少なからずご迷惑になるため申し訳ないと思う。
- 他の先生方の授業構成を学ぶことができ、自分自身の授業に生かせると感じました。
- 参観者が2～3人と少ない場合、無記名方式のアンケートであっても匿名性が損なわれると感じました。
- 参観者が少なく、オープンクラスの実施の意義を、更に理解すべきである。

(電気電子システム工学科)

- これまで何度か授業参観を実施したが、アンケート内容が一度もフィードバックされていないのが問題だと思っている。
- 後期一辺倒だった参観が、前期にも行われることになったので、このままで良いと思います。
- PC用プロジェクタが暗く、後ろの席からは見づらいところがあります。(例えば講義棟51番教室)。プロジェクタの明るさをチェックし、必要に応じてもっと明るいプロジェクタに入れ替えてはいかがでしょうか。
- ワイヤレスマイクの電池が切れていることがあります。充電電池を用い、マイクを未使用時に所定のホルダーに入れておけば充電される製品もあります。使用頻度が高ければ充電が不十分で結局は電池切れになってしまうなど問題もあるかも知れませんが、電池交換不要なマイクを検討して頂ければと思います。
- 自分の担当している時間帯に参加したい講義があるなど、これは解決策がないが、いろんな講義をもっと見て見たい。
- 悪い(?)講義、よい講義のどちらに参加しても参加した人は参考になる。
- 大学教員が教えることに切磋琢磨する機会は少ないので、このような機会は貴重だと思います。

(情報システム工学科)

- 現在のままで特に問題は無いと思いますが、授業参観の時期を少々ずらしても良いかと思います(例えば5月位)。2年前と同じ時期の開催なので、内容が2年前と同じになってしまいました。
- 授業参観に行くより、授業参観してもらうほうが勉強になるので嬉しい。
- 毎年・毎期の実施は、形骸化の速度を速めるだけのように感じます。
- 自分の授業の悪いところを改善しようという意識のある教員の数は0ではないのはわかりましたが、非常に少数派なのではないでしょうか？
- アンケート結果の数値が全てではないとは思いますが、その数値が低い教員の改善意識の方が低いのではないかと感じています。
- 私は、数値は悪い方ではありませんが、他の誰かの良いところを見つけたら、少しでも盗んでしまおうと思いますが、それぐらいの意識がこれからは必要なのではと感じてしまう今日この頃です。

- 何年か続いているので、同じ学科の先生の授業はだいたい参観したので、他の学科の授業をととも思ったが、なんとなく行きにくくて、今回も同じ学科の授業を参観した。ときどき、学科間で、この学科とこの学科は相互に参観しあうことを奨励するというようなことがあってもよいかもしれない。
- 授業参観は、参観する側にも、される側にも、いい意味での刺激を与え、たいへんよい企画だと思います。工学部で実施しているFDの活動のなかで、最も重要な活動と考えます。特別な事情がない限り、原則として、参観期間を特に設定せずに、全ての授業をいつでも参観可としてはいかがでしょうか？

(応用化学科)

- 授業参観も一巡したので、限りある時間を他のことに使うことを考えてもよいのではないのでしょうか。
- 授業を参観できることは大変参考になることも多いです。ただもう少し日程に余裕があると、いろいろな授業を参観できてよいです。
- 一年生を対象とした基礎の講義と、MC 程度の学生用を対象とした各論の講義とでは様子が異なります。前者は内容が確定しているかわり、それを引き受けて展開する分野が控えているため、比較的多量の決められた内容を伝えないとはいけません。後者は、教えないといけない最低の内容量に制限は無く、比較的自由に講義を組み立てられます。双方の違いを認識した上で、典型的な模範講義を聞きたいものです。
- 学生にいかに興味を持ってもらうか、そのアプローチなどは大変参考になりました。
- 授業参観は所期の目的を達したので、他のFD活動を検討すべきと思う。
- 本年度は原則として全ての講義、演習を対象にしたことで、参観可能な講義の数が増え、予定が立てやすい、参観したい講義を選べるなどの利点があったと思います。
- 対象科目を増やしたことによって、全く参観されない科目もあったかと思います。この制度で続けるのであれば、例えば参観する科目のうち、1つはある程度曜日や教員を限定し、多くの科目がまんべんなく参観されるようにし、もう1科目は自由に選べるようにするなどの仕組みにするのも良いのではないかと思います。
- オープンクラスは授業の改善に効果的であると考えられる。他人の授業を見ることによって自分の足りない点を認識するとともに、他人に自分の授業を見られることによって、しっかりやらなくてはならないという緊張感と責任感が生じるからである。他人を評価し、他人からも評価されるという側面もあり、多少ストレスも感じる。しかし、教育の改善は必要不可欠であり、オープンクラスの実施は極めて意義深い。毎年行う必要があるかどうかについては疑問が残るが、隔年で行っても良いとは思う。
- 今回、一部の学科では、オープンクラス対象科目が非常に限られており、工学部の足並みが揃っていないことが非常に残念である。トップダウンで(学部長の判断で)全科目を対象にするということを決めても良かったのではないかと思います。全科目を対象とすることで、もっと効果も上がるだろうし、教育改善に必死に取り組んでいることをもっとアピールできると考えられる。
- 参考にできる点が多いので実施して欲しいが、実施の時期が問題。
- 教員が互いにチェックし合うというのが主旨のようだが、実際講義全てを公開していない学科もあり、実施に対して疑問が残るところではある。

- 毎年行う必要があるのだろうか。

(機能材料工学科)

- 年に一度、自由に他の授業を見るのは参観する方もされる方も刺激になるかと思います。
- 講義の公開に関して、学科ごとに温度差があるように感じられます。公開されていない学科から、ベストレクチャー賞の講義が出ているので、願わくば、見学させて頂けたら幸いです。工学部全体の講義の質を高めよう、という試みであると思いますので、よろしく願い申し上げます。
- オープンクラスは、各教員が講義を客観視し、改善するよい機会だと思えます。しかしながら一部の学科で講義がほとんど開放されていないのが気になりました。
- 若手の教員や、極端に学生の授業評価の低い教員が教育効果を改善する上で、他教員の授業を参観することは価値がある。基本的な授業の技法を身につけることは不可欠であろう。その一方で、学生が5年後、10年後に価値を噛みしめるような授業は、やはり内容であって技法ではない。授業に注力して高い評価を得ている教員は、内容、技法共に優れた面を持つ場合が多いが、丁寧な説明には当然ながら時間を要する、限られた時間で終えるためには、比較的やさしい講義内容に限定する(荒野に連れ出す、または学問的刺激を与えるという面を犠牲にして)、といった傾向は避け得ないのではないだろうか。現在の大学生に対応する以上、ある程度止むを得ないが、心中残念でもある。
- 学生にも事前にこの週はオープンクラスがあることを知らせておいてもいいような気がしました。
- 自学部以外の講義に関しても積極的に参加した方がいいのかとも思いました。
- 時間の都合上、2週間あっても興味を持って聞ける枠は1講義あるかどうかになっている。1ヶ月くらいにしてはどうか。

(建設工学科)

- 授業評価の高い授業のみ参観対象でよい。
- 別のアングルから学生たちを観察するというメリットもある。
- 他の教員の Teaching Style の見学は有益である。

(環境共生学科)